

M 美術館・博物館等の実態・課題

■ 施設概要

市では、市立博物館以外に、特色のある活動を行っている展示施設が5ヶ所あります。

さらに、現在市では、市立博物館の工芸作品を活用し、ガラス・陶磁器を中心とした(仮)国際工芸美術館の整備を芹ヶ谷公園に検討しています。

〔施設一覧〕

地域	複合	施設名	面積 (㎡)	築年	複合施設等
町田中心		国際版画美術館	7,840	1986	
本町田 薬師池		市立博物館	1,411	1972	
本町田 薬師池		本町田遺跡公園多目的施設	169	2011	
町田中心		町田市民文学館ことばらんど	2,154	1978	
北部の丘 陵		自由民権資料館	911	1986	
忠生		町田市考古資料室	664	1990	
本町田 薬師池		ふるさと農具館	405	1992	

■ 実態と課題

- 〔配置〕 ・ 駅から近い施設は2施設である。
- 〔建物〕 ・ 7施設中4施設で築30年以上経過している。
- 〔機能〕 ・ 展示室・収蔵保管庫や作業室のほかに、講堂や閲覧室などの部屋がある。
- 〔利用〕 ・ 利用者数は横ばいか増加している。
- 〔運営〕 ・ 5施設が直営、1施設が指定管理、1施設が委託で運営されている。
- 〔コスト〕 ・ いずれの施設も費用に対して収入が低い。

■ 4つの視点から

行政関与の必要性

- ・ 施設の設置義務はないが、「社会教育法」では、国民自ら実生活に即する文化的教養を高め得るような環境を醸成するように努めなければならないとある。
- ・ 「文化芸術振興基本法」では、地方公共団体は、文化芸術の振興に関し、自主的かつ主体的に、その地域の特性に応じた施策を策定し、及び実施する責務があるとされている。
- ・ 文化財については、文化財保護法に基づいて、保存を適切に行うこと、活用を図ること、国民の文化的向上に資することとされている。

設置目的との整合性

- ・ 当初の設置目的と整合している。

利用状況の妥当性

- ・ 市民文学館ことばらんどは、展示観覧の利用者が40%で講演会等イベントを含む施設貸出しの利用割合は高い。
- ・ 考古資料室では、アウトリーチ展示（他施設での展示）のほうが見学者が多い。
- ・ いずれの施設も費用に対して使用料等の収入は低い。
- ・ 美術館・博物館は、資料の調査や保存・管理費等を含むため、1人あたりの費用が他機能に比べて高くなる傾向にある。

施設の代替性

- ・ 都心部や近隣他市には民間や自治体の設立した美術館・博物館が多数開館している。
- ・ 集会施設は、町田駅付近に多数あるため代替性が高い。
- ・ 民間では町田市全体の文化や歴史を総合的に調査・研究し、資料の収集及び保存をしている施設がない。

〔現状・課題のまとめ〕

都心部や近隣他市には民間や自治体の設立した美術館・博物館が多数開館していますが、町田市の文化や歴史を調査・研究し、資料の収集及び保存・展示をしているのは主に市の施設です。維持管理費については、展示や収集の他に資料の調査や保存・管理費等を含むため、利用者1人あたりの費用が他機能に比べて高くなる傾向にあり、運営方法を見直していく必要があります。また、各施設の利用者数は横ばいか増加傾向にありますが、考古資料室ではアウトリーチ展示のほうが見学者が多いことなどを勘案すると、他施設においても展示のあり方、機能の見直しについて検討することも必要です。収蔵品については、施設によって同種の資料が分散して保存されているため、収蔵場所を見直し、収蔵品のさらなる活用を検討することも課題です。なお、文学館の集会機能は、町田駅周辺にある施設への集約化を検討することも課題です。

▶ M 美術館・博物館等の今後の方向性

■ 再編後のイメージ例

☆≡

- 町田市の文化や歴史を伝える資料の集約により、より魅力的な展示をすることができ、多くの人が文化や歴史に触れる機会を提供することで、市民の市への愛着の醸成、教育、生涯学習などに寄与します。
- アウトリーチ展示によって、特定の施設だけではない場所で文化や歴史に触れる機会が増えます。
- 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、公園の空間や賑わいと一体となった文化・芸術活動の拠点となっており、魅力的な展示やイベントを開催することで市内外から多くの人が集まります。



■ 今後の方向性

集約

複・多

活用

集約化や複合化・多機能化により建物の総量圧縮や施設の魅力の向上を図る。また、アウトリーチ展示等により文化や芸術等に触れる機会を増やす。

- ✓ 町田市の文化や歴史を伝える資料は、収蔵品を整理しつつ、収蔵庫については既存施設を活用して集約化を図り維持管理コストを削減する。また、展示スペースの集約化を検討するとともに展示機能の魅力向上を図る。展示については施設間協力などをすすめ、アウトリーチ展示も検討する。
- ✓ 国際版画美術館及び（仮称）国際工芸美術館は、他施設からのアウトリーチによる展示などの受け皿として活用を検討する。

～こんな取り組みも始まっています～

金沢21世紀美術館

金沢21世紀美術館は、「新しい文化の創造」と「新たなまちの賑わいの創出」を目的に開設されました。2004年の開館6年前より新しい美術館で展開するプログラムを地域の小学校などを会場に実施、この積極的な準備活動を通して、市民の間に支援の輪が広がりました。開館後は、参加交流型の美術館として、新たな「まちの広場」としての役割を担い、だれもがいつでも立寄ることができ様々な出会いや体験が可能となるよう、キッズ向けプログラム、様々な図書・資料と連携したアトライブラリープログラム、学校連携事業など、市民や産業界等と連携を図りながら、多彩な活動が行い、年間200万人の来館者を集めています。



体験館を使った鑑賞授業



キッズスタジオ・プログラム